

自 己 評 価 票

【自己評価の意義・目的】

- 自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことによりサービスの質の向上を図るシステムの一つです。
- サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や、アンケート調査等による利用者からの声の反映、等が相まって実施されることにより、達成されるものです。
- この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

【自己評価の実施方法】

- 運営者（法人代表者等）の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
- 「評価項目」ごとに評価をしてください
- その判断した理由や、根拠のポイントを記入してください。
- 少なくとも年に1回は、自己評価を実施してください。
- 優れている点や、改善すべき点等の特記事項についても、別途（任意様式）を作成してください。
- 改善すべき事項については、改善のための計画（任意様式）を作成してください。
- 利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように利用申込書、又は、その家族に交付する重要事項証明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどして評価結果を積極的に公表してください。
- 評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

地域密着型サービスの自己評価項目の構成

	項目数
I 理念に基づく運営	22
1 理念の共有	3
2 地域との支えあい	3
3 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4 理念を実践するための体制	7
5 人材の育成と支援	4
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援	6
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1 一人ひとりの把握	3
2 本人が、より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4 本人が、より良く暮らし続けるための、地域資源との協働	10
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1 その人らしい暮らしの支援	30
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入年月日	平成 21 年 4 月 5 日
法人名	社会福祉法人 親和会
代表者名	理事長 岸本 邦三
事業所番号	2 7 7 4 2 0 1 7 9 8
サービスの種類	認知症対応型共同生活介護事業所
事業所の名称	グループホーム末広
記入者名	管理者 梶原 利正
所在地	茨木市庄2丁目5番1号
電話番号	0 7 2 - 6 2 5 - 6 2 5 8
F A X 番号	0 7 2 - 6 2 5 - 5 6 7 3

自己評価票

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営			
1 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「大家族 ゆっくり いっしょに 楽しく暮らし」を 理念に掲げている。	理念に沿ったサービスを提供できるように継続していく。
<input type="checkbox"/> 2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所等に理念・方針の掲示、スタッフミーティングなどで、理念の確認を実施している。	全職員が、理念に基づいたサービスを提供できるように取り組んでいく。
<input type="checkbox"/> 3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様には、行事、家族会、外出、面会などを通して、理念を理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域との交流の機会の中で、当ホームの理念を伝え、理解してもらえように取り組んでいく。
2 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な、つきあいができるように努めている	当ホームで実施している行事などに、掲示板、運営推進会議などを通して、地域の方を招くように取り組んでいる。	自治会などを通して、さらに当ホームのことを知ってもらい、多くの人に呼びかけていくように取り組んでいく。
<input type="checkbox"/> 5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同じ地区の祭りや、行事、そして、近隣の小学校の行事に参加することで、地域との交流を図っている。	近隣の他の事業所との交流や、地域の学校との交流をさらに深めていく。
<input type="checkbox"/> 6	○ 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区清掃に、利用者様と一緒に参加している。 また、近隣の小学校の廃品回収にも協力している。	今後は、地域活動で役割が担えることについては、当ホームで担えるように協力をしていく。
<input type="checkbox"/> 7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価に関する外部研修を職員が受講。 また、結果については、参考にして改善を図っている。	全職員が自己評価、外部評価を活かして、具体的改善を強化していく。
<input type="checkbox"/> 8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で外部評価、実地指導の結果報告及び説明を行っている。	運営推進会議のメンバーの方の意見を反映して、当ホームのサービス向上に向けて取り組んでいく。
<input type="checkbox"/> 9	○ 市町村との連携 事業所は市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる	用事の際には、顔を出すようにして、そこで情報交換等を行っている。	出来るだけ顔を出すようにして、情報交換を行っている。
<input type="checkbox"/> 10	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるように支援している	外部研修の受講。 社協の生活支援員と連携して、日常の金銭の管理などを支援している。	外部、内部研修の継続。 社協の生活支援員との連携の強化。

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止に関する内部研修の実施。 高齢者の方に対する、マナー接遇に関する内部研修の実施。	外部、内部研修の継続。
4 理念を実践するための体制			
12	○ 契約に関する説明と、納得 契約を結んだり、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を得ている	契約・解約時には、管理者が説明を行い、疑問点等を尋ねながら説明をしています。	契約・解約時には、出来る限り解りやすい表現を用いて説明をし、納得していただけるように、工夫を重ねていく。
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の家族会での個別相談の実施。 介護相談員の来所。(月2回)	第三者委員と連携をして、利用者様の不満、苦情を汲み取るように心掛けていく。アンケートの実施も検討する。
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的、及び、個々にあわせた報告をしている	月1回の「末広通信」の配布。 月1回の家族会での報告。 当ホームの利用者様の金銭管理。 普段の生活の様子を、写真等を用いて報告をしている。	通信物に関しては、利用者様、ご家族様の意見を反映しながら、さらに充実したものにに取り組んでいく。
15	○ 運営に関する家族等、意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置。 家族会でのご家族様と利用者様の個別面談を実施。	第三者委員とご家族様が話し合える機会を設けていく。アンケート実施を検討する。
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフミーティング、正職員による経営戦略会議などの中で、意見を反映している。	月1回のスタッフミーティング以外にも、話し合いの場を設けて、職員の意見を反映していく。
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや、勤務の調整に努めている	行事や定期外出に関しては、職員数を増やしたり、ご家族様や地域のボランティアの方の協力を得るように心掛けています。	今後も、さらに外部協力者(地域のボランティア)を呼びかけ、行事や外出の機会を充実させていく。
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている	頻繁な異動は避けている。	離職者を減らすため、労働条件の改善と、施設サービスの向上により、職員の定着を図っていく。 ○
5 人材の育成と支援			
19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修の実施。 月1回のスタッフミーティングでの学習会の実施。	外部、内部研修の継続。 ○
20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設連絡部会等への参加にて、意見交換等を行い交流を図っている。	近隣の事業所等と学習会を通して交流を図りながら、ネットワークを強化していく。 ○

( 部分は外部評価との共通項目)

↑  取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や、環境づくりに取り組んでいる		外部研修の継続。 内部研修の実施。 職員の個別相談の継続。
22	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		資格取得や、外部研修受講の奨励を図っていく。

II 安心と信頼に向けた関係づくりと、支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに、本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を、本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		個別相談の機会を増やしていく。
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等を、よく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		個別相談の機会を増やしていく。
25	○ 初期対応の見極めと、支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		他の事業所等と連携を図り、情報交換を互いに行っていく。
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら、工夫している		体験入居の継続。 行事等に体験参加していただく。

27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		利用者様と職員と一緒に出来ることを増やし、互いに学び、実現できる喜びを実現出来るようにしていく。
28	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている		普段、当ホームに訪問が困難なご家族様に対する支援を、さらに検討していく。
29	○ 本人と家族の、よりよい関係に向けた支援 これまでの本人と、家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している		ご家族様と利用者様が、交流出来る行事や企画を増やしていく。
30	○ 馴染みの人や場所との、関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないう、支援に努めている		出来る限り、知人の方にも気軽に訪問出来るように、配慮していく。

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	<input type="checkbox"/> 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	<input type="checkbox"/> 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	集団レクリエーションや創作活動、日常の作業を通して、お互いに協力していくように、職員が支援をしている。	集団で行う作業やレクリエーションや活動を増やし、お互いに協力して行う機会を増やしていく。
32	<input type="checkbox"/> 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	実際、契約が終了した方への継続的な関わりは、来ていない。	電話であったり、訪問することで継続的な関わりを持つようにしていく。

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当ホームでは、これまでの家庭での生活を基盤にして生活を継続できるように支援をしている。さらに、必要に応じて再アセスメントも実施している。	まだまだ、利用者様の意向に添えていない部分が多いため、少しずつ意向に添えるように取り組んでいく。
34	<input type="checkbox"/> これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族様からの情報を基にして、利用者様の生活歴等の把握に努めている。	利用者様の生活歴を、全職員で共有できるように工夫していく。
35	<input type="checkbox"/> 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	起床、就寝に関しては、利用者様の希望に添えるように支援している。	<input type="checkbox"/> 生活全体に関して、まだまだ把握できていない部分についても、把握していく。

2 本人が、より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを通して利用者様、ご家族様、管理者、ケアマネ、担当介護職員で話し合い、作成している。	ご家族様、利用者様以外の、いろいろな専門家の方の意見を反映していく。
37	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアマネを通してご家族様に連絡を取って、ケアカンファレンス実施。そして、介護計画を見直し、作成をしている。	状態が急変もしくは、対応が困難となった場合、介護計画を、そのつど見直し、新しく作成していく。
38	<input type="checkbox"/> 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護職員はケアの中で、気づいたこと記録するようにひとり一人心掛けていく。内部研修の実施。	介護職員の観察力と、記録の技術の向上をさらに図っていく。

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望があれば、預かっているお金で、個別送迎し、好きなものを購入してもらっている。	要望に関しては出来るだけ、個別で対応できるように支援していく。
----	---	--	---------------------------------

4 本人がよりよく暮らし続けるための地域資源との協働

40	<input type="checkbox"/> 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化、教育機関等と、協力しながら支援している	ボランティアセンターを通してのボランティアの導入。	<input type="checkbox"/> まだまだ活用できていない地域資源については、今後、活用できるように取り組んでいく。
----	---	---------------------------	--

(部分は外部評価との共通項目)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41 ○ 他サービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		他の事業所との連携を強化していく。
42 ○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		処遇困難なケースについても、相談していきたい。
43 ○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		これまで通り、出来る限り、利用者様が通われていた病院に受診出来るように、支援すると共に、主治医との関係も深めていく。
44 ○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等、認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や、治療を受けられるよう支援している		必要とあれば、かかりつけ医に相談して紹介していただく。
45 ○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員、あるいは地域の看護職と、気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		近隣の診療所の医師、看護師との連携を継続していく。
46 ○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している		入院先の医師、看護師等の方から、利用者様に関する情報等について早期に聞き、退院後のホームの生活の対応を、検討するようにしていく。
47 ○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から、本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と、繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		重度化や終末期に対する指針の作成をし、職員間で共有出来るようにしていく。外部研修の実施。
48 ○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が、日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともに、チームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて、検討や準備を行っている		当ホームに於ける、重度化や終末期に対する指針を作成し、利用者様ご家族様にお伝えし、かかりつけ医と連携を取って、チームとして支援していく。
49 ○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で、十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		情報交換と引き継ぎを密にすることで、ダメージを減少していく。

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
-----	---------------------------------	--------	----------------------------------

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りや、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	外部、内部研修の実施。	外部、内部研修の継続。
51	○ 利用者の希望の表出や、自己決定の支援 本人が、思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり、納得しながら暮らせるように支援している	利用者様が自己決定出来る範囲で尊重して、行事、企画、レクリエーション、外出などを支援している。	○ 利用者様の自己決定を、出来る範囲で尊重する機会をさらに増やしていく。
52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや、都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、利用者様のニーズやペースを尊重するように心掛けているものの、利用者様の希望に添えて、支援できていない部分もある。	利用者様のご希望に添えないことに関しては、それらのニーズに対応できるように検討していく。

(2) その人らしい暮らしを続けるための、基本的な生活の支援

53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみや、おしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	出来るだけ馴染みのある店へ行っている。ただけるよう、ご家族にお願いしている。	ご家族にお願いするばかりでなく、ホームとし利用者様の望む所へ行ける体制作りをしていく。
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食時が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、それぞれ役割を持って、調理、準備、片付けを職員と実施している。	さらに出来ることを個別に増やし、充実していく。
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを、一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している	利用者様の好きな嗜好品については、必要に応じて購入して預かり、利用者様の必要に応じて、お渡しするようにしている。	利用者様の嗜好を楽しめる企画や機会を増やしていく。
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、一人一人の力や排泄のパターン、習慣を活かして、気持ちよく排泄できるように支援している	適切なトイレ誘導により、排泄等がスムーズに行えるように、取り組んでいる。	利用者様全員の、排泄のリズムやシグナルなどを、全職員が理解して、適切なトイレ誘導を実施していく。
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を、職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間については、出来る限り、利用者様の希望に添えるように取り組んでいる。	出来るだけ、利用者様のニーズに添った入浴の支援を検討していく。
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣や、その時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している	日中でも、臥床、休息が必要であれば、随時、居室等で休んでいただいている。	これまで通り、随時、居室等で必要に応じて休息をとっていただけるように、支援を継続していく。

(3) その人らしい暮らしを続けるための、社会的な生活の支援

59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや、喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る限り、利用者様が望まれるレクリエーション、外出、企画、行事を実施して支援している。	定期的に利用者様から、個別に聞き取りをしたり、みんなで話し合う機会を設けていく。
----	--	--	--

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援している		金銭を使用する機会を増やしていく。
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりの、その日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		利用者様のご希望を聞く機会を増やし、さらに、外出の機会も増やしていく。
62	○ 普段、行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい、普段は行けないところに、個別あるいは、他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している		こうした機会をさらに増やしていく。
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやりとりができるように、支援している		今後は、寒中見舞いなど、必要とあれば、手紙でご家族様や知人様とのやりとりが出来るように支援していく。
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している		今後も、気軽に訪問していただけるように、支援を継続していく。

(4) 安心と安全を支える支援

65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		外部、内部研修の継続。
66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		無断外出の防止。防犯面における対策を実施していく。
67	○ 利用者の安全確認 職員は、本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜、通して利用者の存在や、様子を把握し、安全に配慮している		利用者様のプライバシーを最大限に尊重しながら、利用者様の様子をこまめに観察するように、取り組んでいく。
68	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を、一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている		展示物などは、出来る限り安全性を考えて、掲示を続けていく。
69	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる		夜間セコムの実施。 消防訓練の実施。 警察との連携。
70	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や、初期対応の訓練を定期的に行っている		応急手当等に関する講習の継続。

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回、避難訓練を実施。 年2回、消防署員立ち会いの下、避難訓練を実施。	地域全体での避難訓練、消防訓練等の実施。
72	○ リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	「ひやりハット」と、事故報告書や記録を活用し、再発防止、事故対策に取り組んでいる。 リスクマネジメントに関する外部、内部研修の実施。	リスクマネジメントの向上。リスクマネジメントに関する外部、内部研修の継続。

(5) その人らしい暮らしを続けるための、健康面の支援

73	○ 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や、異変の発見に努め、気付いた際には、速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りノートや、個人記録等に記載し、引き継げるように取り組んでいる。	申し送り等に漏れがないように取り組んでいく。 外部、内部研修の実施。
74	○ 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や、副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と、症状の変化の確認に努めている	利用者様のお薬を当ホームで預かり、職員がセットすることで、全職員が理解できるように配慮している。	ケアカンファレンスやスタッフミーティングなどで、服薬の情報交換などを実施していく。
75	○ 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や、身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	レクリエーションで体操したり、天気の良い日には、散歩に出かけたりと、出来るだけ歩いていただくように心掛けている。	食生活面においても、さらに工夫を重ねていく。
76	○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや、臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や、力に応じた支援をしている	口腔ケアの実施。 週1回の歯科往診の実施。	口腔ケアの継続。 週1回の歯科往診の継続。
77	○ 栄養摂取や、水分確保の支援 食べる量や、栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の記録の実施。 水分を取りやすいように、オプションを増やしている。	水分の記録の継続。 水分をのオプションをさらに増やして、飲みやすい物を検討していく。
78	○ 感染症予防 感染症に対する予防や、対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	外部、内部研修の実施。 ホーム内の消毒の実施。 手洗い、うがいの実施。	外部、内部研修の継続。 ホーム内の消毒の継続。 手洗い、うがいの継続。
79	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具等の消毒の実施。 手洗いの実施。 食材の安全管理の実施。	調理器具等の消毒の継続。 手洗いの継続。 食材の安全管理の継続。

2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

80	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関のスロープと、手すりの設置。	四季に見合った植物を植えるなど、親しみやすい雰囲気づくりを検討していく。
----	---	------------------	--------------------------------------

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		季節感をさらに実感できるように、季節に応じた装飾を工夫していく。
82	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		つい立等を準備し、一人でも気軽に落ち着いて過ごしていただける空間を作っていく。
83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		これまで通り、出来る限り利用者様の馴染みの品を利用出来るように、支援を継続していく。
84	○ 換気・空調の配慮 気になるにおいや、空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じて、こまめにやっている		換気・温度調整をこまめに実施していく。

(2) 本人の力の発揮と、安全を支える環境づくり

85	○ 身体機能を活かした、安全な環境づくり 建物内部は、一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるように、工夫している		各居室に必要なに応じて、手すり等の設置を検討する。
86	○ わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりの、わかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している		利用者様の残存能力について全職員が周知するように、取り組んでいく。
87	○ 建物の外廻りや、空間の活用 建物の外廻りや、ベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	○	ガーデニングや、菜園の機会をさらに増やしていく。

V サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	① ほぼすべての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで、生き生きした表情や、姿が見られる	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で、不安なく過ごせている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることを、よく聴いており、信頼関係ができています。	○	① ほぼすべての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場や、グループホームに馴染みの人や、地域の人々が訪ねて来ている	○	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが、広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	① 大いに増えている ② 少しづつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くない
98	職員は、生き活きと働けている	○	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスに、おおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等は、サービスにおおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての家族が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点や、アピールしたい点を記入して下さい)

利用者様の出来ることに重点を置いた生活支援(掃除、洗濯、料理等)を継続し、利用者様に生活する上での役割、存在感を持っていただいている。また、地域の行事等にも積極的に参加し、地域の方々との交流を図り、グループホームの存在を理解していただき、利用者様が安全に安心して生活できるように努めている。更に、学習療法を取り入れ、簡単な読み書き・計算をすることで脳を活性化し、認知症の進行を遅らせ、利用者様の生活の意欲の向上にも努めている。